経済学部　教授　土屋昌明

　すっかり大国化したちかごろの中国。ファーウエイを目のかたきにするアメリカ政府のやり方といい、必死に肩肘張ってがんばる中国政府の態度といい、なんだか大国らしい鷹揚さのかけらもない。とはいえ「成り上がり」という点では、アメリカより中国の方が新米だ。学生諸君は中国を経済大国と感じているだろうが、じつは違う。中国の貧しさには二つの側面がある。

　一つは、中国は少し前まで経済的に貧しい国だった。私が中国に行っていたころは、停電はしょっちゅう、一般の家にテレビもなかった。中国人と仲良くするには、カメラを向けて撮ってあげればよかった。これは時間的な側面。

　もう一つは、空間的な側面。大国化した現在でも、農村に行けば、驚くほど変わっておらず、確かに品物は増え、電子化は進んだが、インフラや生活環境は取り残されている。しかも、一部の人は成り上がって傲慢になり、取り残された人は、経済格差に押しひしがれる。ともに精神の貧困に陥りかねない。

　中国の大国化とともに、中国のことを知る必要があるとすれば、まず農村に眼をむけてほしい。本書は、著者の実家がある河南省の農村に素材をとったルポルタージュ小説である。成金中国の向こう側に貧困の荒れ地が広がっていることを教えてくれる。いろいろ私たちには考えられないような事件がおこり、奇妙きてれつな状況となるのは、かなりおもしろい。農村から都市を見る――中国社会を深く知るための第一歩だ。

中国はここにある : 貧しき人々のむれ /
梁鴻[著] ; 鈴木将久, 河村昌子, 杉村安幾子訳
みすず書房 , 2018.9

本　　館 K/926/R96
神田分館 /926/R96